

氏名	黒 瀬 太 一
授与した学位	博 士
専攻分野の名称	医 学
学位授与番号	博乙第 〇 号
学位授与の日付	平成16年3月25日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第4条第2項該当)
学位論文題目	Functional Evaluation of Lung by Xe-133 Lung Ventilation Scintigraphy before and after Lung Volume Reduction Surgery (LVRS) in Patients with Pulmonary Emphysema (肺気腫患者におけるLVRS前後のXe-133肺換気シンチグラフィによる肺機能評価)
論文審査委員	教授 谷本 光音 教授 小出 典男 教授 谷崎 勝朗

学位論文内容の要旨

〔目的〕近年重度の肺気腫患者に対して、肺容積減量手術(LVRS)が積極的に施行されるようになってきている。我々は Xe-133 肺換気シンチグラフィを用いて、LVRS 術前後での定量的な肺機能評価を行い、その有用性について検討した。〔対象および方法〕LVRS が施行された肺気腫患者 69 例（男性 62 人、女性 7 人、平均年齢 65.4 ± 6.1 歳）に対して術前後に肺換気シンチグラフィおよび呼吸機能検査を施行した。肺換気シンチグラフィから平均通過時間 (MTT)、呼吸機能検査における 1 秒量、残気量および 6 分間歩行距離、Hugh-Jones (H-J) 分類をパラメータとして、術前後の統計学的解析を行った。〔結果〕全てのパラメータが術前後で統計学的有意差を持って改善された。MTT は、1 秒量および H-J 分類とは有意な相関がみられなかったが、残気量および 6 分間歩行距離とは有意な相関が見られた。〔結語〕Xe-133 肺換気シンチグラフィは、LVRS 術前後の肺機能評価および術後の中期予後予測に有用であると考えられた。

論文審査結果の要旨

本研究は、69 例の肺気腫患者に対する lung volume reduction surgery (LVRS) 施行後に肺シンチグラフィを実施し、LVRS 実施 3 週後の MTT (Mean Transit Time) が 3 ヶ月後の RV および 6 分間歩行の改善と有意な相関関係にあることを見出した。

また、LVRS の切除すべき target area に関しても、従来の胸部 CT や肺血流シンチグラフィを参考に行われていたが、肺シンチグラフィで洗い出しの遅延する部分も target area に加える事の妥当性についても検討され、肺気腫患者の臨床管理に関して新たな知見を得た価値ある業績と認める。

よって、本研究者は博士（医学）の学位を得る資格があると認める。